

学校評価シート（自己評価）

幼保連携型認定こども園岡田幼稚園

1、園の教育目標

本園は集団生活を通して、知的な面においても情緒的な面においても社会性においても子どもたちがより望ましく成長し発達していくことを目標とする。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ○ 喜んで登園する子どもに | ○ いつも目が輝いている子どもに |
| ○ 丈夫なからだをもったこどもに | ○ のびのびと表現し、喜んで創造する子どもに |
| ○ 友達とよく遊び、協力できる子どもに | ○ よく考え、豊かに想像する子どもに |
| ○ お話をよく聞き、自分の気持ちを言える子どもに | |

2、具体的な目標や計画

園の教育目標に基づいて、各自が評価項目に沿って自己評価を実施する。また、指導計画の再確認を行い、内容を検討して、保育内容の見直しや改善を行う。

子どもたちが自ら考え主体的に行動していく教育を念頭に、カリキュラムを考慮しながら教育活動を進める。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
指導計画について	A	日案・週案・月案を作成して、保育の流れを明確にするとともに子どもたちの姿を捉えて無理のない指導計画を作成した。また、ねらいや内容、環境の構成が適切であったかどうか、教育・保育の自己評価をして、保育内容の見直しや改善をした。
研修について	A	川越北消防署の方に来園して頂き、保育教諭は救急法（AED）の研修をすることができた。また、今年度は10名の保育教諭がキャリアアップ研修にも参加して保育の質を高めることができた。 栄養士・調理師も川越市が主催する研修に参加できた。今後も教職員は積極的に研修を行う。
災害対策	B	総合訓練を年2回行っていたが、今年度から水害の訓練（垂直訓練）を実施した。今後も継続して続け災害対策を向上させる。また、古谷小学校が、第一避難場所となる古谷小学校まで歩く練習を今後は検討する。

バス送迎時の安全管理	A	園長、保育教諭、バス運転手等は、車内に園児が残っていないか、椅子の下等見落としがないかを毎日確認した。今後も報告書を作成して、園児の安全を確認する。また、マニュアルやバス車内の改善をはかり、安全対策を向上させる。
ICT 活用について	B	今年度途中から、園児の登園管理と保護者との連絡、保育教諭の計画・記録について、短期間での活用となった。引き続き次年度も活用し保護者及び保育教諭の負担軽減を目指していきたい。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	教員は学校評価の趣旨を理解して取り組むことができた。 保育士等キャリアアップ研修に保育教諭が参加でき保育の質を高めることができた。今後も参加できるようにする。 ICT の活用がはじまり、保護者との連絡がスムーズになった。また、保育教諭の負担が軽減された。

○結果(※)について		
A	十分達成されている	
B	達成されている	
C	取り組まれているが、成果が十分でない	
D	取組が不十分である	

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育内容	令和4年度の自己評価を受けて、今後も保育教諭が新しい課題を設けることで、自己成長に取り組んでいく。
研修	日程が定まっているため、保育教諭同士でよく話し合い、できる限り保育教諭がキャリアアップ研修に参加できるようにする。
指導計画	保育教諭間で保育を見せ合い、検討して評価反省する機会を設け指導計画の改善を図る。今後も保育教諭は、保育環境の構成に力を入れて、保育の向上を心がける。
総合遊具の点検	園長、保育教諭で安全点検はしているが、総合遊具の目で見えない箇所（土の中にある支柱、金属の内部等）について業者による点検を依頼する。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼保連携型認定こども園岡田幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和5年2月4日（土）

9：00 ～ 9：45（時間）

出席者 評価委員（地域住民）2人

評価委員（評議員） 2人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

概ね目標に向かい達成されている。今後も保育者として、自らを評価して日々の保育を充実させる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切であった。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

概ね適切に設定されている。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

概ね適切だが、今後も課題に対してさらなる努力をもって取り組んでもらいたい。